

## 建物新営について

平井英二

玄関の「金沢大学計算機センター」なるプレートは、中川学長のご揮毫によるものである。この建物の新営について施設部の方が最適と思われるが、関係した一人としてその経過と考え方について述べたい。

一昨年の夏、文部省に概算要求していた中型電子計算機が文部省議を通過し、12月に大蔵省案を通った旨、連絡があった。丁度、金大も学内問題から電子計算機が取り消されるという噂があって、心配したが、1月に解決したのでほっとした次第である。その後3月に機種の変換を行ってFACOM 230-35型ということになった。

建物については概算要求で260㎡を要求してあったが、電子計算機センターの効果的運用のためには電子計算機室以外に保守員室、プログラム室、パンチ室、事務管理室、電源空調室が必要なので260㎡では狭すぎるので、若島工学部長にお願いして、使用していない木造校舎の使用をお願いした。木造と新営とを併わせて使用すればほゞ目的の坪数となるが、計算機センターは24時間運転ということ考えると老朽校舎では危険ということになり、260㎡の倍520㎡は教育、研究上からは非必要であるということを知島施設部長、瀬川課長にお願いしたところ多少の紆余曲折はあったが、そのまま520㎡を文部省に申請し、認めて頂いた。

これと平行して工学部内での設置箇所であるが、共同利用施設としての建物、そして工学部の建物計画との関係上から、建物の位置を施設部と工学部の建物計画委員会と共に考えて、現在地に決定したわけである。そして計算機運営委員会の意見を参考にして基本的な部屋割と設備を計画し、施設部にお願いした。

8月6日起行式を行い、45年12月に新営工事が完成することになった。

計算機センターの建物は普通の校舎とは異った目的がある。すなわち利用者にはよりよきサービスを行い、計算機センター従事者には良い環境でばりばり仕事をやって頂く必要がある。この組み合わせをシステムチックに解決するには困難な事項も多いが、多くの人々の意見を参考にして部屋の配置とその間の連絡を考えた。図1のような計算機の流れを考えてみた。ネガテ

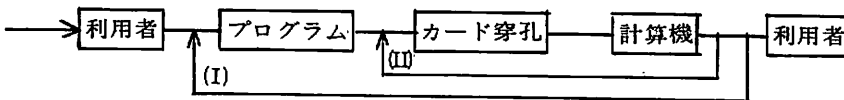


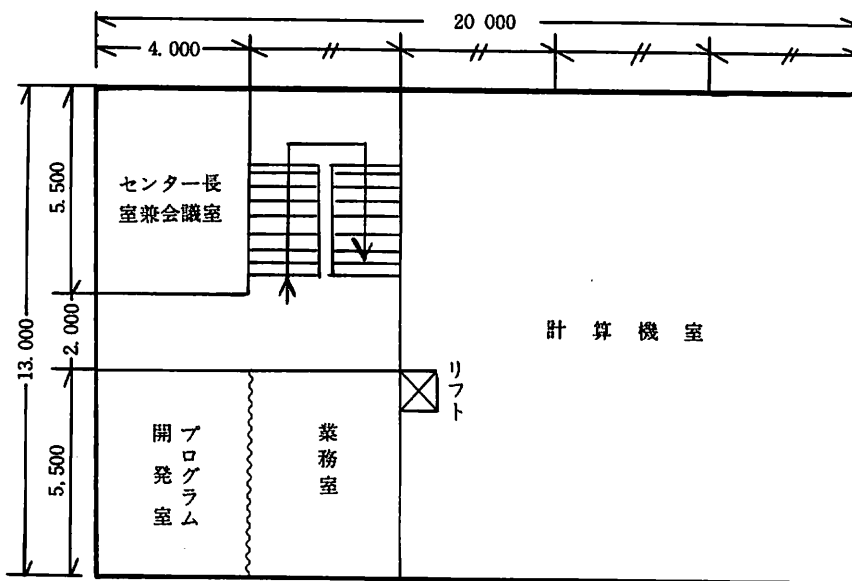
図1 (計算機センターのブロック線図)

ィブ・フィードバック回路が2個あるので、制御系のカスケード制御のブロック線図と類似している。すなわちカスケード制御は制御の質の改善のためよい方式である。計算機センターとしては一回で計算が成功するオープンループの場合と、プログラムやカード穿孔をやりなおさねばならない場合がある。図の(I)、(II)のフィードバックは後者のケースであり、(I)はおもに1階で(II)は2階で処理するようにしました。

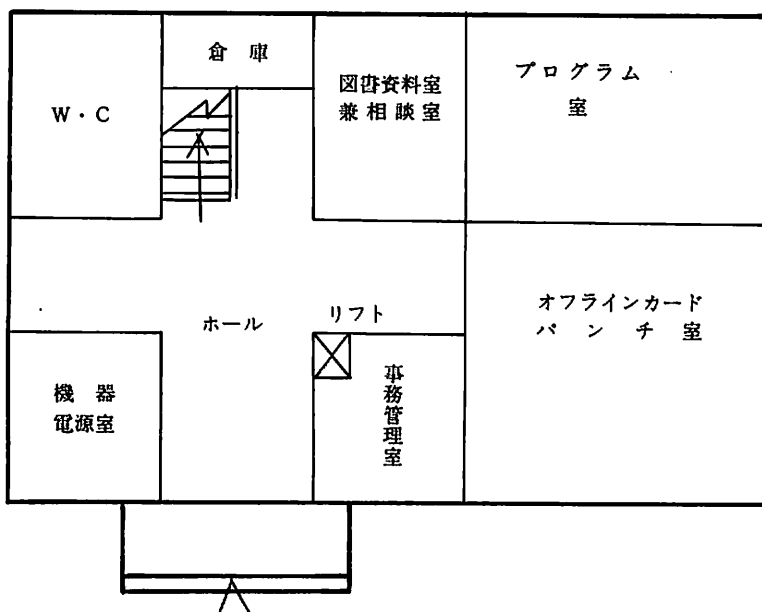
すなわち図(2)のように1階は利用者のものであり、受付とプログラム室、カードパンチ室と図書兼プログラム、相談室がブロック状に集合しており、お互いに連絡はカード類のリフトで関係をもった。また建物の位置は工学部事務部と最短距離にあり、事務連絡などにも便利であり、守衛室も近くにあり、時間外使用のための鍵をあづけておくことが可能であり、この点も便利であると思う。また事務管理の簡易化を行う必要上から、たとえば椅子は型式が異なるかまたは色を変化させる工夫を行い、消耗品のカード類については集中的の保管を行うようにした。この外に将来、TSSの工事やITV取り付けも考えられるので、あらかじめコンジットパイプをうめこんでおいた。

最後に、種々お世話になった皆様に感謝の意を表しますと共にこの計算機センターの利用が

益々盛んにならんことを期待いたします。



(2 F) 平面図



(1 F) 平面図

図2. 計算機センター配置図